

伝統工芸の津軽塗を体験

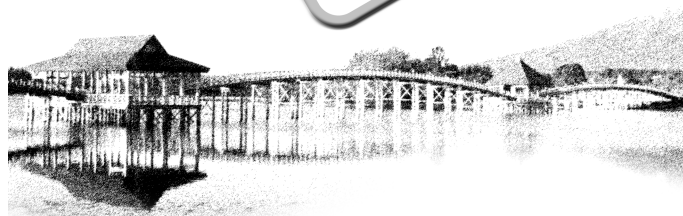
10月4日（木）、鶴田小学校の5、6年生154人が津軽塗の体験学習をしました。

子どもたちは、津軽塗伝統工芸士会（坂本彰彦会長）の会員10人の指導の下、リング型のコースターと写真立て作りに挑戦。この日は、これまでにアクリル絵の具（漆の代用）で4回重ね塗りした作品を、紙やすりでこすって模様を出す磨きの作業とニス塗りの作業をして作品を完成させました。作品の表面を紙やすりで丁寧に磨いていくと、自分だけの模様が浮き出てきて、それぞれに個性のある作品に仕上がっていました。

柴田安紀さん（6年）は「初体験で楽しかった。まあまあうまくできた」と笑顔で感想を話してくれました。



△コースターや写真立てを紙やすりで一生懸命磨く様子



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを
役場企画課広報国際係までどしどしお知らせ
ください。（☎22-2111 内線264）

スチューベンを全国に発送

10月15日（月）、郵便事業株式会社が行っている「スチューベンゆうパック」の出発式が、道の駅「鶴の里あるじゃ」で行われ、生産者や関係者らが見守る中、今年の第1便717ケースが首都圏へ向けて出発しました。

当町のスチューベンは、栽培面積86ヘクタール、生産者197人で昨年の生産量は1,300トンを超えており、日本一の生産量を誇っています。今年の生育状況は8月、9月の猛暑により、例年より糖度が高く特に甘いとのこと。郵便事業株式会社五所川原支店の小野寺支店長は「鶴田町のスチューベンを誇りを持って全国にPRしたい」とあいさつを述べました。



△出発前には水元中央保育園児による太鼓の演奏が披露されました

荒波を乗り越え50年を祝う

10月21日（日）、国際交流会館ホールで平成19年度金婚式が開催され、昭和32年4月1日～33年3月31日の間に婚姻をした28組54人（対象47組）が参加し、共に50年の結婚生活を祝いました。

式典では中野町長が「50年の人生の足跡を振り返りながら歓談し、さらにいっそう楽しい人生をお送りください」とお祝いの言葉を述べ、その後、出席した夫婦へ顕彰状と記念品（金の夫婦人形）が贈呈されました。

実行委員会（太田聡委員長）主催の祝賀会では、丹頂太鼓の演奏やマジックショーなどが行われ、参加した夫婦を楽しませました。



△中野町長が席を回り、顕彰状と記念品を手渡しました



△三上杏実さん考案のデザート「小さな青森のホットタワー」

本物の・正しい味を教えたい

10月29日（月）、菖蒲川小学校で味覚の授業「キッズ・シェフ」が開催され、6年生12人が保護者や鶴田町食生活改善推進委員会と一緒に、味覚の授業と地元の食材を中心に使った料理の実習をしました。

この日は、弘前市にある「レストラン山崎」のオーナーシェフ山崎隆さんと息子さんの慧太さんが、講師として調理や正しい味覚について指導。子どもたち自身が考えたメニュー（ハンバーグ、コーンクリームスープ、スチューベンとリンゴを使ったデザート）3品を、3チームに分かれて調理し、一流の味と技術を学びました。

ハロウィーンを楽しむ

10月31日（水）、公民館主催の英会話教室ハロウィーンパーティーが開催され、約200人の子どもたちが、ゲームやお化け屋敷を楽しみました。

このパーティーは国際交流員のアダム・ラピエールさん、ジェニファー・ステイントンさん、外国語指導助手のケビン・タンさんが中心となって企画したもの。一番人気のお化け屋敷では、あまりの怖さに泣き叫ぶ子もいました。お父さんの黒いジャンパーを着てドラキュラに仮装し、大賞を獲った平田大輝くんは「初めて参加したけどおもしろかった。賞をもらって嬉しい」と話していました。



△たくさん子どもたちが仮装コンテストに参加、写真は仮装大賞の3組